

1 子ども条例に基づく施策の実施状況

条例は前文で、「子どもは自分が受け止められ、認められていると実感することで自己肯定感を高めることができる。また、子どもは、家庭や学校を始めとする地域社会での経験を通して、人とのさまざまな関わりや多様な価値観に触れることで、人を思いやる心や自らの課題を乗り越える力を身に付けることができる」とうたっています。

このような子どもの力を育んでいくため、子どもの「思いや意見が尊重される」取組を進めていくことが大切です。

条例では第3条第1号で「子どもを権利の主体として尊重する」「子どもの最善の利益を尊重する」「子どもの力を信頼する」を基本理念として定めています。

この基本理念を実現するために、条例第11条において、子どもの権利について学ぶ機会の確保や子どもの施策に関しての意見表明と主体的活動の支援等について定めています。

【条例第11条】（施策の基本となる事項）

県は、子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりに関する施策の策定及び実施に当たっては、次に掲げる事項の確保を旨とするものとする。

- 一 子ども権利について、子ども自身が知り、及び学ぶ機会並びに県民が学ぶ機会を提供すること。
- 二 子どもに係る施策に関して、子どもが意見を表明する機会を設け、参加を促すとともに、子どもの意見を尊重すること。
- 三 子どもが、自らの力を発揮して育つことができるよう、主体的に取り組む様々な活動を支援すること。
- 四 子どもの育ちを見守り、及び支えるための人材の育成を行うとともに、保護者、学校関係者等、事業者、県民及び子どもに関わる団体並びに市町が行う活動の促進が図られるよう、環境の整備を行うこと。

子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりに関する県の主な取組の実施状況について、以下および別表のとおり、条例第11条で定める基本となる事項別に整理しました。

(1) 子どもの権利について学ぶ機会の提供等

子どもが自分の権利について知り、自分が大切な存在であると認識すると、他人の権利を尊重することや、社会のルールや約束事を守ることの大切さについての理解が深まります。また、大人は、子どもの権利について学ぶことで、子どもが基本的人権を有する一個の人格であることを理解することができます。その中で子どもと大人に信頼関係が生まれ、子どもが安心して豊かに育つことができるようになります。

○「三重県子ども条例」推進・啓発等の実施（子ども・福祉部）

子どもの権利条約に認められている子どもの権利や、子どもと向き合うときに大切にしたい基本理念などについて解説した乳幼児を持つ世帯向けのリーフレットを作成しました。

また、「子育て応援！わくわくフェスタ」などの子どもの育ちや子育て家庭を応援するイベントなど、さまざまな機会を捉えて啓発活動を行ったほか、平成30年3月4日には東員町総合文化センターにおいて、「子どもの自己肯定感」をテーマとした「みえ子育てホッとフォーラム in 東員」を開催しました。

第12回子育て応援！わくわくフェスタ

○キャッチフレーズ：世界の鈴鹿・亀山発 ニッコリ子育て支援の輪！

○日時：平成29年11月23日（木・祝）10時～16時

○会場：三重県立石薬師高校（鈴鹿市）

○来場者：約6,000人

○出展：61ブース

○出演：3団体

○主催：三重県、みえ次世代育成応援ネットワーク

○共催：鈴鹿市、亀山市



○「命の大切さを学ぶ教室」の開催（警察本部）

次代を担う中学生、高校生および大学生に対し、犯罪被害者等の講師が、犯罪被害者等が受けたさまざまな痛み、家族の絆、命の大切さ、被害者も加害者も出さない社会を希求する思い等について語りかけ、受講した生徒が犯罪被害者等の悲痛な思いや置かれている現状に対する理解を深め、社会全体で犯罪被害者等を支える気運の醸成を図るとともに、自分や他人の命を大切にする意識、犯罪を犯してはならないという規範意識の向上を図ることを目的として開催しました。（開催回数：12回、受講者数：約5,800人、うち中高校生：約5,600人）

(2) 子どもが意見表明する機会の設定等

子どもが地域の中で生活する一員として、よりよい地域社会づくりに向けて意見を表明する機会があることは大切です。そのような機会を積極的に設けることで、子どもの社会参加の促進や地域への愛着形成にもつながります。

○「キッズ・モニター」アンケートの実施（子ども・福祉部他）

県の施策に子どもの意見や状況を反映させるため、子どもを対象にインターネットを用いた電子アンケートに回答していただく「キッズ・モニター」を実施しました。（実施回数：7回）

○家族の絆 一行詩コンクールの実施（子ども・福祉部）

温かい気持ちのやりとりのなかで、子どもが安心して自分らしく育つことを期待して、「ありがとう」をテーマにした一行詩を募集し（応募作品数：12,732作品）86作品が受賞しました。このうち、最優秀作品賞については、3月4日に東員町総合文化センターで表彰式を行いました。

家族の絆一行詩コンクール表彰式

- ・日時 平成30年3月4日（日）
- ・場所 東員町総合文化センターひばりホール
- ・概要 家族の絆一行詩コンクール表彰式
講演会
講師：真生会富山病院心療内科部長
明橋大二さん
ステージイベント
出演：飛龍東員太鼓子どもチーム



【平成29年度 家族の絆・個人部門 最優秀賞】

お母さんへ

「頑張らなくて いい日もあるんだよ」

あなたがそう言うってくれるから私は今日も頑張れます。いつも本当にありがとう。

(3) 子どもが主体的に取り組む様々な活動の支援

子どもにとって、地域社会のなかでのさまざまな体験や人とのふれあいは、すべて学びにつながり、自信や信頼を深める大切な機会でもあります。子どもが自分で考える力と、思いや願いを実現する力を発揮して自分らしく育っていけるよう、より多くの機会や情報の提供などの支援が求められています。

○高校生フェスティバル（教育委員会事務局）

「三重県立高等学校産業教育フェア」「みえ高文祭」「三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会および三重県高等学校定時制通信制生徒文化作品展」「人権まなびの発表会」「高校紹介ひろば」「高校生フォーラム」を実施し、高校生が日頃の学習や文化活動等の成果を情報発信しました。

- ・実施日：平成29年10月27～29日（29日は台風接近のため中止）
- ・開催場所：三重県総合文化センター
- ・参加生徒延べ約1,289人、一般来場者延べ約3,814人

○キッズISO14000プログラム（環境生活部）

小学校、企業、行政が連携してキッズISO14000プログラムに取り組むことにより、子どもがリーダーとなって、保護者に趣旨を理解してもらい協力いただくことで、家庭での節電等の取組を推進しました。（参加児童数：小学校13校、469人）

(4) 子どもの育ちを支える人材育成、環境整備

子どもが豊かに育っていくためには、たくさんの大人が多様な価値観を持って子どもとふれあい、子どもを支えていくことが大切です。地域の中で子どもの育ちを支えることのできる人材を育成するとともに、そうした人材を含め地域の多様な主体が行う活動が促進されるような環境整備が求められています。

○みえ次世代育成応援ネットワークの活動促進（子ども・福祉部）

社会全体で子どもや子育て家庭を支える地域を実現するために、地域の担い手である企業や子育て支援団体等が参画し活動している「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員拡大および活動促進を図りました。（会員数：1,554 平成30年3月31日現在）

○子ども専用電話相談の運営（子ども・福祉部）

子どもからの相談に対応する窓口として、子ども専用電話相談「こどもほっとダイヤル」を運営し、悩みを抱えた子どもの声を受け止め、子どもとともに状況や気持ちを整理しながら継続して相談を受け、子どもが自らの力を回復して解決していくことができるよう手助けしています。虐待やいじめなど子ども自身の力だけでは解決できないような場合には、児童相談所や教育委員会等関係機関と連携して対応しました。（平成 29 年度の相談件数：1,425 件）（平成 30 年 3 月末現在）

○子育て・子育てマイスター養成講座や孫育て講座の実施（子ども・福祉部）

地域において多くの子育て支援の場や子育て家庭を支えることができる人材の養成を図るため、市町のニーズに応じて、必要とされる一定の知識や専門的なスキルを身に付ける子育て・子育てマイスター養成講座や子育て期を終えた世代を対象とした孫育て講座を市町と連携して実施しました。受講者は、中学生あかちゃんふれあい体験のサポートや託児支援などに関わり、各地域で活躍していただいています。（平成 29 年度の講座実施市町数：のべ 6 市町、養成者数：のべ 99 人）

【参考】みえの子ども応援スマイル補助金を活用した事業の取組状況

「みえの子ども応援プロジェクト」に賛同いただいた皆様からの協賛金を原資に、子育て・子育て家庭支援など「子どもの笑顔と子育ての喜びがあふれる地域社会づくり」を進めるための取組に対して補助金を交付する「みえの子ども応援スマイル補助金」を活用した事業については、下記のとおり、各団体において、取組が実施されました。

①教職員・子育て支援者及び保護者向けディスクレシア（読み書き困難）を活かす～個性の磨き方・輝かせ方～

【実施団体名】NPO 法人 21 世紀の子育てを考える会 鈴鹿（鈴鹿市）

【補助額】82,000 円

【事業概要】教職員や子育て支援者、保護者などを対象に、学習障がい的一种であるディスクレシア（読み書き困難）に関する研修会を開催します。

【実施状況】教職員や子育て支援者、保護者などを対象に、学習障がい的一种であるディスクレシア（読み書き困難）に関する研修会を 8 月 24 日（木）に開催し、50 人に参加していただきました。参加者からは「ディスクレシアへの理解が深まった」「子どもの関わり方など参考になった」などの声が寄せられました。

②地域団体と学生の協働による「持続的な子育て支援」の仕組みづくり

【実施団体名】特定非営利活動法人 太陽の家（桑名市）

【補助額】76,000 円

【事業概要】大学生と協働した、フィールドワークの実施などを通じて、保育、放課後児童対策など子育て家庭への支援や経済的に困難を抱える家庭への支援の強化に向けた事業の企画・立案を行います。

【実施状況】学生の啓発および地域活動への参加を促進することを目的として、学生と子ども支援団体などを対象に、学生が自ら企画する形で「学生ボランティア・フェスティバル」を 12 月 2 日（土）、平成 30 年 2 月 17 日（土）の 2 回開催し、計 67 人に参加いただきました。参加者からは「子ども支援団体と若者を結びつける良い機会となった」などの声が寄せられました。